

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

作業療法を説明する

年度が変わり1か月が過ぎ、新たな環境にも慣れた頃と思いますが、皆様、変わりなくお過ごしでしょうか。

昨年度を振り返り、会長としてお会いした方との話の中で、「作業療法の説明」を考えさせられたことが二つありました。このことをお伝えしたいと思います。

まずは、都士会連盟の長井会長と共に、ある都議との面談のために東京都議会議事堂を訪れた時のことです。その都議から、「田中さん、作業療法（OT）を説明しづらいので名前を変えたら？」と言われました。この都議はご自身のお子さんがOTを受けた経験がある方で、OTについて話しをされる機会があるようで、このように言われたのだと思います。

次に、今年の養成校入学式でのことです。例年いくつかの養成校から卒業式や入学式の招待状が来ますので可能な限り参列するのですが、今回もPTに比べてOT学生数が圧倒的に少ないことが目立ちました。養成校の先生から、「入学者を増やすために高校の教員に働きかけてはいるが、教員が生徒に対して作業療法を説明しづらいことが影響しているのではないか？」と話されていました。

「作業療法の説明」のしづらさへの対応として、凸版印刷がTOPPANに社名変更したように、「作業療法」の名称を変えるわけにはいかないので、「作業療法の説明」をして下さる方に、もっと分かりや



会長 田中 勇次郎

すくOTを伝える必要があると感じます。簡単な表現で理解してもらえるフレーズ、例えば、① PTは、身体のリハビリ OTは、心のリハビリ ② PTは、やらねばならないリハビリ OTは、やってみたいリハビリ など、PTと対比して伝える。如何でしょうか？

おわりに、OT 協会誌に組織率対策委員会が、養成校教員及び学生を対象として実施したOT協会に対する意識調査の報告には、「協会や士会が何をしているかよくわからない。」という回答の多さが示されていることに触れます。

このことは、上述のこととは異なりますが、知ってもらうことについては同様です。協会や士会が実施している内容を、短時間で良いので頻回に発信することだと思います。

都士会では、今年度新たに府中市から介護予防事業の委託依頼、江戸川区教育委員会教育相談センターから小中学校への派遣依頼などが来ています。これまで各部・各委員会が着実に積み重ねてきた成果が出ていていると感じています。このような例を皆様に向けて、タイムリーに発信することではないでしょうか。SNS の活用が一つの手段になると思います。

今年度も都士会活動へのご支援・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

CONTENTS

- ◆作業療法を説明する…①
- ◆第21回東京都作業療法学会 開催のご案内…②
- ◆生涯教育制度について…③
- ◆東京都作業療法士会 2025年度会費のご案内…④
- ◆事業部活動報告…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆地域づくり共創部年間計画と都学会企画…⑤
- ◆認知症に関する情報交換会に参加して…⑥
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.50…⑥
- ◆保険部 Letter 障害者支援に関する医療費・生活費を

- 保障するための制度の紹介…⑦
- ◆2月の福祉用具部研修会の感想…⑦
- ◆委員募集と活動紹介…⑧
- ◆就労支援委員会 2024年度の事業報告と2025年度の事業計画について…⑧
- ◆東京都JRAT E-スタッフ養成研修会 参加報告…⑨
- ◆ブロック活動報告…⑩
- ◆都士会公式SNSの紹介…⑫
- ◆編集後記…⑫

第21回東京都作業療法学会 開催のご案内

今年の東京都作業療法学会開催まで残り2か月となりました。開催日が近づくにつれいろいろな企画や詳細が決まっていき、各運営メンバーが準備に奔走しております。

当日は特別講演に加えて、教育講演では身体・小児・地域・精神の4領域から様々な先生方にご講演いただきます。また、ランチタイムセミナーでは新しい生涯学修制度についてご講演いただくなど、普段の研修会ではなかなか拝聴できない先生方の講演となっておりますので、この機会にぜひご参加ください。

このほかにも一般演題発表、機器・出展ブースや障がい者スポーツの体験会、学生や当事者・一般参加の方向けの企画も交えた作業療法体験やクイズラリーを計画しております。詳しくは学会ホームページを順次更新しておりますので、ご参照ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【大会概要】

学会テーマ：「Now or Never -今、できること-」

学会長：中里武史（東京都作業療法士会 事務局長）

会期：令和7年7月13日（日）

会場：東京都立大学 荒川キャンパス（東京都荒川区東尾久7-2-10）

【特別講演】

〈特別〉テーマ：この15年間にわたる作業療法とのかかわり

ー 反復性経頭蓋磁気刺激とボツリヌス療法を中心にー

講師：安保雅博先生

（東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座主任教授・附属病院副院長）

【教育講演】

〈身体〉テーマ：非侵襲性脳刺激と集中的作業療法の評価と治療

講師：濱口豊太先生（埼玉県立大学保健医療学部作業療法学科 教授）

〈小児〉テーマ：すべての小学校に『学校作業療法室』

講師：下出尚弘先生（岐阜県飛騨市教育委員会 教育長）

奥津光佳先生（NPO法人はびりす 作業療法士）

〈地域〉テーマ：離島での作業療法の実践と課題

講師：大海龍一先生（平成医療福祉グループ医療法人社団大和会多摩川病院）

〈精神〉テーマ：多様な生活支援から暮らしを支え合う街づくりに関わる作業療法

講師：遠藤真史先生（相馬地方基幹相談支援センター 拓 管理者）

【ランチタイムセミナー】

〈学修〉テーマ：新生涯学修制度について知ろう！

講師：竹中佐江子先生（株式会社リニエR）

【申し込み方法】

期間：令和7年5月7日 ～ 7月7日 締切

方法：QRコード、または学会と東京都作業療法士会ホームページの学会案内をご参照いただきお申し込みください。

※詳細は学会HPにも記載しておりますのでご参照ください。

学会事務局：東京都作業療法士会区東部・東北部ブロック

学会担当問い合わせ先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

学会参加イベント
QRコード



東京都作業療法学会HP



生涯教育制度について

東京都作業療法士会教育部 部長 太田 萌

日本作業療法士協会（以下、OT協会）では作業療法士の学術的研鑽を支援するために、生涯教育制度を設定しています。2025年4月より、卒前と卒後の教育および学修の連続性を考慮した仕組みを構築した新制度が開始となりました。新制度では、旧制度の認定作業療法士制度、専門作業療法士制度の前段階に登録作業療法士制度が加わりました。これにより、作業療法士有資格者の質を担保するための継続的な学びを促進し、キャリア形成の支援となることを目指しています。本稿では新制度から開始となる登録作業療法士制度ならびに新制度と旧制度の東京都作業療法士会での研修の取り扱いについて解説します。

まず、新制度の対象者は2025年度よりOT協会に入会された方となります。2024年度以前にOT協会に入会された方は2027年3月末まで旧制度での学習の継続が可能です。なお、東京都作業療法士会教育部でも2027年度まで旧制度での現職者共通研修および選択研修の開催を予定しております。各研修会について、開催日程が決定しましたら東京都作業療法士会HP（以下、HP）にてお知らせいたします。

つぎに、新制度に新設される登録作業療法士の定義について、OT協会は「従事する実践領域において頻繁にかかわる疾患や障害のある、またはそれが予測される人々に対し、標準的な作業療法プロセスに従い、独力で作業療法を実践する能力を有する作業療法士を本会が認定した者」としています。登録作業療法士制度は前期研修と後期研修からなり、合計5年間の研修期間を通して標準的な作業療法を実践する力を身につけていきます。前期研修期間はOT協会の入会より約2年間とされており、eラーニングでの講義と実地経験が課されています。eラーニング講義の受講方法についてはOT協会のHPをご確認ください。実地経験は、所属施設、組織の上位者OTとの相互での技能チェックにより修了を目指す形式となります。これらの前期研修が修了した後に後期研修の受講資格を持つことが、各都道府県士会で開催する講義・演習に参加する為の条件となります。なお、前期研修・後期研修の他に、MTDLP基礎研修や厚生労働省指定臨床実習指導者講習会の受講が必要となります。その他、新制度・登録作業療法士制度の詳細やマニュアルは随時OT協会HPに掲載されておりますので、各自でご確認ください。

その他、東京都作業療法士会教育部では昨年度同様に自由選択研修の開催も予定しております。自由選択研修とは東京都作業療法士会教育部の裁量によって、内容を自由に設定できる研修となっています。身体・精神・発達・老年領域にてさまざまな研修を企画中です。こちらも研修会の開催が決定次第HPに掲載いたしますのでご確認ください。

2025年度もZoomによる遠隔形式での開催を基本としつつ、対面形式による研修会の再開も予定しております。たくさんの方の研修会へのご参加を、お待ちしております。

東京都作業療法士会 2025年度会費のご案内

一般社団法人 東京都作業療法士会 事務局 中里 武史

日頃より、東京都作業療法士会の事業にご支援・ご協力いただき厚く御礼申し上げます。2025年度の会費についてご案内申し上げます。東京都作業療法士会は他県との異動が多いという状況を鑑みて、年度が明けてからの会費のご案内としております。何卒ご了承ください。

【会費の口座振替（自動引き落とし）の手続きをされた方】

2025年4月28日（月）に振替を実施いたしました。

会費の引き落としが完了できた方には5月号ニュースに領収書を封入しております。

残高不足等で引き落としが完了できなかった方には個別に事務局よりご連絡させていただきます。

【口座振替でない会員の方】

2025年度の会費振込用紙を5月号ニュースに同封しております。

2024年度や2023年度会費未納の方は合算された金額となっておりますのでご確認ください。2年分の会費未納がある場合には、6月末で退会処理をさせていただきますので、お早めにお手続きいただけますようお願い致します。

なお、振込用紙以外に金融機関からの振込やクレジット決済でのご納付をご希望の方はQRコードをご参照いただき、ご対応をお願い致します。

また、2026年度の口座振替の手続きについては11月ごろにご案内させていただきます。



会費に関しましてお手数おかけしておりますが、何卒宜しくお願い致します。

事業部活動報告

事業部 伊藤 啓史

3月23日に事業部主催で開催いたしました研修「認定・専門作業療法士を目指すあなたへ」は、おかげさまで盛況のうちに終了いたしました。

本研修では、認定作業療法士の清水先生、そして専門作業療法士の田中先生、松岡先生を講師にお迎えし、認定・専門作業療法士の現場での活用事例、資格取得までの具体的な計画、両資格の今後の展望などについてご講演いただきました。50名近い受講者の皆様からは、講義前、講義中と活発なご質問が寄せられ、講師の先生方の丁寧なご回答により、受講後のアンケートでは「資格取得への意欲が高まった」という声を多数いただきました。改めて、講師を務めていただいた先生方に心より御礼申し上げます。

また、アンケートでは、認定作業療法士と資格取得希望者との橋渡しなど、当士会に新たな役割を期待する声を多数いただきました。これらのご意見を踏まえ、具体的な方法の提案など、企画立案に邁進してまいりたいと考えております。

新年度を迎え、登録作業療法士制度が始まるなど、作業療法士を取り巻く環境が変化する中、認定・専門作業療法士への関心の高さを改めて実感いたしました。今回の研修で得られた成果を糧に、事業部では今後も会員の皆様にとって有益な情報提供ができるよう、企画・運営に尽力してまいります。事業部の活動にご興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

子ども委員会活動報告

子ども委員会 山崎 仁智

新しい年度が始まる中で、子ども委員会で活動することが増えてきました。今年度の動きとして、学校派遣事業の運営の開始、子ども委員会の班制の導入、5歳児健診についての情報収集などを新たに行っていこうと思っています。

学校派遣事業はこれまでも学校に作業療法士派遣への問い合わせがあり、子ども委員会の方で対応してきました。今後も問い合わせが増えるのではと考えており、事業の運用により作業療法士と学校とのマッチングがスムーズにできるようになればと思っています。発達領域以外の作業療法士の方にも関わっていただく可能性があるのでお力添えいただけると幸いです。

班制としては①研修班、②学会班、③福祉機器展班、④学校派遣事業、⑤5歳児健診班、⑥外部連携班に分かれて運用していきたいと思っています。随時、企画などを検討して実施していきたいと考えています。現在進行中のことは、キッズフェスタへのブースの出展や東京都作業療法学会の公募企画にエントリー、学校派遣事業も運用に向けて動いています。

近年のトピックスとして5歳児健診への取り組みも期待されています。まずは情報収集を行いながら、東京都内の現状を把握し、作業療法士の関わり方について検討していきたいと考えています。

子ども委員会では、これから企画などを含めて検討事項がありますが、子ども委員会の活動に、興味がある方は声をかけていただければ幸いです。

地域づくり共創部年間計画と都学会企画

地域づくり共創部（浅草病院） 坂本 泰平

地域づくり共創部の年間計画として、東京都地域支援体制構築事業の取り組みを引き続き進めて行きます。具体的には、地域支援事業実態調査、地域づくり人材育成事業、地域づくりサポーター認定の推進、市区町村担当者配置事業、地域支援事業相談窓口設置事業、自治体における地域支援事業等参画支援事業の取り組み、東京都作業療法学会公募企画を実施します。また、東京都三士会が主催する地域包括ケア関連事業の運営や東京都が行う地域包括ケア関連事業の運営、他県士会及び日本作業療法士会地域社会振興部の活動に協力します。

第21回東京都作業療法学会でも企画を準備しており、「ICT活用による高齢者の社会参加支援と作業療法の可能性」に焦点を当てた企画を予定しています。本企画では、高齢者支援や認知症ケアにおけるICTの活用を通じて、社会参加の促進と作業療法の新たな可能性を探ります。研究と実践の両視点からICTの重要性を示し、日々の臨床現場でも活用できる具体的なアイデアや工夫を紹介し、ICTの導入に関心のあるOTにとって実践的な知見を深める場となればと思います。

私は昨年度から地域づくり共創部の部員として携わらせていただき、東京という大都市地域における作業療法士の実践に直接触れることができ、都学会では学舎にこのような形で携われることをとても嬉しく思います。

認知症に関する情報交換会に参加して

認知症の人と家族の生活支援委員会 山下 高介

当委員会では、3月に『座談会（認知症に関する情報交換会）』を開催しました。講師には、矢吹知之先生（高知県立大学社会福祉学部）をお招きし、認知症に関する施策やオレンジカフェのあり方などについてお話していただきました。その後、当委員会メンバーからの情報提供や参加者全員での情報交換を行いました。

矢吹先生のお話で、特に印象深かったのはオレンジカフェのあり方と効果です。オレンジカフェのあり方では、サロンやその他の取り組みを比較しながら、誰でも参加でき地域に対する認知症の理解啓発やソーシャルアクションが狙いであることを改めて学びました。また、その効果は認知症と診断される前後にある空白の期間に対して有効的であるということでした。

後半の情報交換では、矢吹先生はじめ委員会のメンバーも加わり活発な交流がなされました。アンケートからも、交流の場をもう少し確保してほしいという意見が上がるなど、大変嬉しいお言葉をいただきました。

当委員会では、今年度もオレンジカフェに関する研修会を企画予定ですので、ぜひご参加ください！！

認知症にやさしい本の紹介 VOL.50

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『早合点認知症』

内田直樹／著

本書は、一般的な認知症のイメージとは異なる、見過ごされがちな側面に光を当てている。周囲の安易な「早合点」によって認知症と誤解され、適切な支援から遠ざけられる人々の存在を指摘している。加齢、他の疾患、あるいは単なる個性が、周囲の早まった判断で認知症というレッテルを貼られてしまう事例のことである。頑固な性格が理解力低下と決めつけられたり、難聴による聞き間違いが記憶障害と誤認されたりする例を挙げ、「早合点」が本人や家族に苦痛を与え、適切なケアや治療の機会を奪う可能性を訴えている。特筆すべき点は、認知症診断の慎重さの重要性を強調する点である。単一の症状や行動のみで判断するのではなく、詳細な問診、検査、多角的な評価の必要性を具体的なケースを通して示している。同時に、医療・介護の専門家だけでなく、家族や地域社会全体が先入観を持たずに高齢者と向き合うことの重要性を訴えているところにある。そして、認知症に関心を持つ全ての人に新たな視点を提供している。認知症の多様性を理解し、安易な「早合点」を防ぐための警鐘を鳴している。それは、高齢者が尊厳を保ち、その人らしい生活を送るための第一歩となると説いている。専門知識がなくとも理解しやすく書かれており、認知症に関わる全ての人に読んでほしい一冊である。

保険部 Letter

障害者支援に関する医療費・生活費を保障するための制度の紹介

保険部担当理事 松岡 耕史

今回のニュースでは、私達が関わる対象者の医療費や生活費を保証するための制度について掲載致します。聞いたことがあるけれど詳しくは分からないという制度がある場合は、この機会に整理してみてもいいでしょうか。

〈高額医療費制度（限度額適用認定証）〉

医療費の1～3割が自己負担だが、所得に応じた自己負担限度額を超えた時は、超過額が「高額療養費」として後日払い戻される。70歳未満および70歳以上の低所得の方は、事前申請により「限度額適用認定証（70歳以上は標準負担額・限度額適用認定証）」の交付を受け、医療機関窓口での支払いが自己負担限度額までとなる。

〈自立支援医療（精神通院医療）〉

通院による精神医療を継続的に要する程度の精神障害や高次脳機能障害などの症状がある方の医療費が原則1割になる。精神医療に関わる調剤、往診、デイケア、訪問看護も対象になる。

〈傷病手当金〉

被保険者が、業務外の病気やけがによる療養のため欠勤して給料を受けられない日が続いた時、その4日目以降、加入している健康保険組合等から最長1年6ヶ月、1日につき標準報酬日額の2/3の金額が支給される。

〈障害年金（障害基礎年金・障害厚生年金）〉

障害認定日（初診日から1年6ヶ月、またはそれ以前で症状固定時）に法令に定める障害の状態にあり、20歳から65歳になるまでに請求することで受給できる。ただし、保険料未納期間があると受給できない場合がある。

障害基礎年金：年金加入者が受給対象。障害程度により1級、2級の年金が支給される。

障害厚生年金：厚生年金加入者が受給対象。障害程度により1級、2級、3級の年金または一時金（障害手当）が支給される。1級、2級は障害基礎年金と障害厚生年金が支給されるが3級は障害厚生年金のみの支給となる。

〈特別障害者手当〉

重度障害を有し常時特別の介護を要する在宅の20歳以上が対象。おおむね身障手帳1級、2級、愛の手帳1度、2度で、かつそれらが重複している、あるいはこれらと同等の疾病、精神障害の方（所得制限あり）。

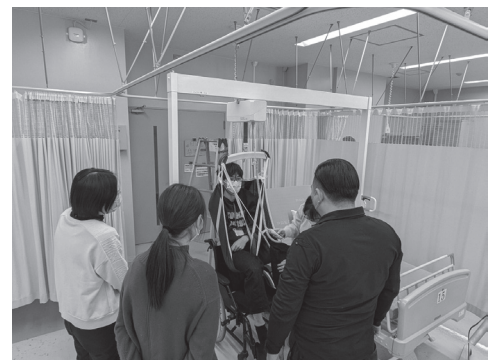
2月の福祉用具部研修会の感想

ソフィアメディ訪問看護ステーション矢口 四方 幸代

今までリフトを使ったことがなかったので、使い方などを知っておいたほうがよいと思い研修に参加させていただきました。

研修ではスライディングシートや据置式・ベッド固定式・床走行式のリフトを用意してくださっており、実際に体験しながら説明を聞くことができました。どれも勤務先にはないと触れる機会がないため、良い経験になりました。また、アップライド株式会社のトランスファーサポートチームの方が来てくださっており、実際の経験も交えて教えてくださったので、より理解が深まりました。

職場でも共有して、いろいろな環境設定、介助方法を提案できるようにしていきたいと思います。



【都学会公募企画への参加】

7月13日（日）に開催される第21回 東京都作業療法学会において、福祉用具部として公募企画に応募しました。『福祉用具の活用の今と未来を一緒に考えよう！』を題材に、シンポジウム形式で意見交換を行います。福祉用具の選定や教育など参考になるとと思いますので、ご参加をお待ちしております。

委員募集と活動紹介

自動車運転と移動支援対策委員会 委員長 大熊 諒

今年度、自動車運転と移動支援対策委員会の委員長の変更があり、新しく就任いたしました東京慈恵会医科大学附属病院の大熊諒と申します。不慣れではございますが、当委員会の活動がより一層活発になるよう尽力してまいります。

自動車運転と移動支援対策委員会では、現在、委員の募集を行っています。委員には所属先でドライビングシミュレーターでの評価や自動車運転教習所との連携などの自動車運転再開に向けた支援を行っていない方もおります。これから支援体制を整える予定の機関の方、支援を開始したばかりでわからない点が多い方などもこの機会に是非、委員として一緒に活動してみませんか？

また、自動車運転だけでなく移動支援の取り組みも当委員会では行なっております。地域のデマンド型交通の紹介や電動車椅子の紹介、車いす街歩き（一般社団法人WheelLogの協力）など自動車以外の移動手段に対する支援の活動も精力的に行っています。今年度は、都内の自動車運転再開に向けた評価、支援を行っている医療機関との連携を深め、情報交換や協力体制が取れるよう活動を進めていく予定です。少しでも興味があり活動に協力していただける方がいらしたら是非、お声掛けください。

■ お問い合わせ先：自動車運転と移動支援対策委員会 大熊 諒 E-mail : okuma.r@jikei.ac.jp

就労支援委員会 2024年度の事業報告と2025年度の事業計画について

就労支援委員会 齊藤 陽子

昨年度、就労支援委員会では、「第20回東京都作業療法学会への参加」や、「就労支援委員会主催の研修会」、更に「オンライン事例検討会」などを開催させて頂きました。参加して頂いた会員の皆様にとって、少しでもお役に立てていれば嬉しいです。

今年度は、昨年度に引き続き、「第21回東京都作業療法学会への参加」や、「就労支援委員会主催の研修会」、「オンライン事例検討会」を開催させて頂く予定です。

第21回東京都作業療法学会では、今年10月1日に施行予定の『就労選択支援』に関する企画を計画しています。また、オンライン事例検討会は2回の開催を予定しており、昨年度の研修会に参加頂いた方々の声を踏まえたテーマを取り上げる予定です。

今年度も引き続き、会員の皆様、研修会に参加される皆様と一緒に、就労支援について、学び・情報共有ができる機会をつくっていききたいと考えています。

就労支援に携わっている方、ご興味のある方は、是非、ご参加頂ければ幸いです。

【就労支援委員会 問合せ先】 shuuroushien.tokyo.ot@gmail.com

東京都JRAT E-スタッフ養成研修会 参加報告

保険部/医療法人社団永生会 永生病院 野口 僚子

2月23日の東京都災害リハビリテーション支援関連団体協議会（東京都 JRAT）主催で開催された標記研修会に参加してきました。

災害時には情報が錯綜しやすいですが、スムーズな支援を行うためには適切な情報収集が重要です。JRATでは以下の4つの役割分担をすることで、被災地・本部・関連団体などとの連絡・調整の円滑化を図っています。

R-スタッフ（JRAT Rapid Response Team Staff）	発災直後から、被災地の地域JRAT本部の立ち上げやその他初動対応を行い、被災地のJRAT活動が円滑に開始できるように必要な支援をする
D-スタッフ（JRAT Disaster Assistance Staff）	地域JRAT本部長の指示の下、避難所などでの支援活動を行う
L-スタッフ（JRAT Logistics Staff）	地域JRAT本部長の指示の下、本部活動およびその支援を行う
E-スタッフ（Emergency Assistance Staff）	発災時の地域JRATの緊急募集に応じて、避難所でリハビリテーション支援活動を行う

（JRAT ホームページより引用）

E-スタッフ以外は事前の研修受講・登録が必要です。E-スタッフには特定の研修要件は無いものの、関連知識を学んでおくことが推奨されており、東京都JRATでの初のE-スタッフ向けの研修会だったそうです。

研修は事前のE-learningと半日の集合研修で構成されていました。E-learningはJRATの活動・E-スタッフ派遣の流れなどの実務的な内容に加え、災害リハビリテーション概論や感染対策・心理面の対応など避難所での留意点などの講義があり、集合研修ではグループワークで避難所の評価・環境整備の検討など実場面での考え方などを学びました。

災害後の精神症状など特化した配慮が必要な側面もあるものの、「（スタンドプレイではなく）関係者で協議し決定する」「クライアント（この場合は被災者）の立場に立ち、強要しない」「卒業を視野に入れて支援する」「限られた資源を必要な対象に配分する」「個人因子や環境因子も重要」など普段のリハビリテーションの考え方との共通点も多いことを改めて認識する機会になりました。

東京都作業療法士会でも、都内での災害発生時に必要に応じて作業療法士の派遣をスムーズに行うシステムの構築を目的に「災害派遣登録バンク」を設置しています。災害リハ支援の有無は問いませんので、ご興味のある方はぜひ登録をお願いします。下記URLまたはQRコードから登録用Googleフォームへ入り、災害派遣登録バンクへご登録ください。

URL： <https://forms.gle/jm5TELQU1dSfmN6Q8>



QRコード

ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

水上 翔太

昨年度は2月に【退院後の暮らしどう考える？】というタイトルで研修会を行いました。講義では退院を進める中での、もやもやした話や生活期が回復期からどんな情報が欲しいかといった内容を話し、それを踏まえたグループワークでは参加者の皆様から活発な意見交換がありました。終了後のアンケートでは他の病院や施設の取り組みが知れたことや各領域の考えなどを知れたことで皆様の満足度が高い研修会となりました。次回も皆様にとって有意義な時間となる研修会を計画してまいります。

そして今年度は、令和7年7月13日（日）に【第21回東京都作業療法学会】を当ブロックが主催いたします。今回のテーマは【Now or Never - 今できることを - 】です。現在開催に向けて中里学会長のもと各実行委員が準備に奔走しております。当日は特別講演や教育講演のほか、様々な企画を用意しております。皆様にとって充実した一日となるように準備を進めておりますので、ぜひ会場まで足を運んでください！よろしくお願いします！

学会及びブロック連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

西部・西南部ブロック

石川 未来

当ブロックでは、今年度も認知症アップデート研修を担当することになりました。皆様今年度も是非ご参加ください。

その他に昨年度ブロック独自で開催することが出来なかった、見学会や研修を兼ねた近隣OTとの交流会なども今年度は開催予定です。開催が決まり次第お知らせ致します。ブロックに関係なく、ご参加いただけると幸いです。

また引き続き、ブロック活動にご興味のある方も随時募集しております。様々な分野で経験豊富なメンバーがそろっております。ご興味のある方は下記アドレスまでご連絡ください。お待ちしております。

連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

小川 諒

皆さん、初めまして！

昨年度からブロック委員を務めております、小川と申します。岡山県出身で、今年で臨床4年目になります。普段は回復期の病院に勤務しており、今年度から半年間、急性期の病院へ出向しています。

区西北部ブロックでは、昨年度、東京都作業療法学会や生涯教育制度に関する研修の企画・運営を行いました。研修では、50名程が参加しまして、自己研鑽の必要性を再度確認できる場になったかと思います。今年度も、臨床で働く皆さんのお役に立てるような研修を企画中です。ぜひご参加ください！

また、「研修の企画・運営に関わってみたい」「ブロック活動に興味がある」という方も大歓迎です。お気軽にお問い合わせください。一緒にブロック活動を盛り上げていきましょう！

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック**阿部 幸太**

2025年2月15日に今年最初のブロック主催イベント「大交流会」が行われました。参加者同士で作業療法のこと、仕事のこと、ブロック活動のことなど、多岐に話し合うことができ、今後のブロックの活動にも生かしていくヒントが色々とあり、実りある会になったと思います。現在は、ブロック内での発展の一助となるような2025年度の活動を考えております。また、当ブロックと一緒にブロック活動を盛り上げてくださる方を募集しております。ブロック活動は、人の繋がり、作業療法についての考えを深め広げられる環境が整っています。活動に興味のある方はメールをください。是非、一緒に活動しましょう！

連絡先→ ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック**竹本 龍太**

初めまして。今年度から広報担当となりました竹本と申します。普段は、養成校の教員をしており、主に身体領域の授業を行っています。また、週に1回復職支援領域（リワーク）で非常勤として研修をさせていただいております。

先日は、「東京OT働き方アップデート研修～新たな領域の作業療法に触れる～」と称して「学校OT」「社会福祉協議会でOT」の働きをお話していただきました。近年、多様な働き方が話題となっている中、貴重な機会となりました。

今年度も北多摩を起点にOTの繋がりを爆発させよう！をテーマに、ブロック内だけでなく多くの作業療法士と繋がりを持てるような活動を企画していく予定です！

*ブロックメンバーも引き続き募集中です。ブロック活動に興味のある方は、気兼ねなくご連絡ください。
ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック**吉田 瞳**

新年度が始まり、新入職や異動で新しい環境での業務となった方も少しずつ慣れてこられている時期だと思います。同時に疲れも出やすい時期でもありますので、無理のないようにお過ごしください。

昨年度、当ブロックでは対面開催での実技研修も実施でき、明日からの臨床に活かすことができる内容にこだわって研修を企画してまいりました。今年度も皆さんのヒントになるように企画していきたいと思います。また、開催時期の都合でMTDLP事例検討会を行うことができませんでしたので、今年度中の開催を検討しております。

西多摩・南多摩ブロックでは経験年数も得意分野も様々なスタッフが所属しております。ブロック活動を通して作業療法を盛り上げていきましょう！！

ブロックメンバー大募集！ご興味ある方はご連絡下さい⇒swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

都士会公式SNSの紹介

広報部 部長 野村 哲朗

都士会では会員の皆様に研修会や学会情報、活動の報告など有用な情報をお届けしています。

ホームページでは総合的に最新情報を包括しています。また、「ダウンロード」のタブより都士会ニュースや広報誌OTOをどなたでもご覧いただけるようになっています。是非、アクセスしご活用ください。

また各種公式SNSのアカウントも展開しています。

今後、更に充実させて活発にしていきたいですので是非、フォローをお願いします！



@TOKYO_OT

編集後記



新年度が始まり、ひと月が経ちました。

都士会ニュースとしては今年度、初の発行になります。今年度もよろしくをお願いします。

広報部では只今、協力メンバーを募集しています。

主な活動内容

広報誌の作成・ホームページの更新：会員の方への情報提供

OTOの作成：1年に一度テーマを決め作業療法の情報発信

現在、上記に加えSNSの活性化を図りたいと思っています。特に20～30代の方に向けた発信に力を入れたいと考えています。

協会・都士会の情報が広くいきわたり、活動が身近に感じてもらえるように活動します。

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

koho-ml@tokyo-ot.com 東京都作業療法士会広報部 野村宛

広報部 部長 野村 哲朗

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。